



『積小為大』

二宮尊徳翁銅像建立に寄せて

税理士法人TACT高井法博会計事務所  
TACTグループ関連十二社代表  
税理士 高井法博

TACTグループの中核企業である高井会計は、昨年創立三十五周年を迎えた。

今回は特別な記念事業は行わず、東日本大震災被災者への寄付を行う位に留めたが、これとは別に三十五周年を記念して何か一つ我々の生き方・考え方、志を示すものを形として残したいと思っていた。かねてより長い間風雪に耐え我々を見守ってこられた小学校の校庭にあつた二宮金治郎像を設置したかったが見つからず、新たに造ることを決意した。

年の瀬も押し迫った去る平成二十三年十二月二十六日、社内ですさやかに二宮尊徳翁銅像建立除幕式と併せ、今から六年前から任意参加で私の事情が許す限り、月曜の早朝七時三十分から八時四十五分まで京セラ名誉会長の講演テープ等を中心に聴き、その後皆が意見を発表し、私が解説をする思想研修会の二百回を記念したイベントを開催した。

一・二宮尊徳翁銅像建立への想い

高校を出て十二年間の会社員時代、会計事務所を開業して三十五年、計四十七年間、実業の世界で生かされて来た。開業当初から経営計画書に、理念、方針、何のために事業を

興し、人生どう生きるか！を明示し、今日まで必死にその理念目標達成に向けて努力を続けて来た。当初は、社員への給与を中心とする経費の支払い、そして自分達が食べていくことで一杯であったが、お客様のご支援と社員の頑張り、そして、私自身も一杯勉強し人の二倍三倍駄馬に鞭打って頑張り、お陰様で現在のような高井会計を中心とするTACTグループを創立させていただくことができた。その間本来の会計事務所業務に精励すると共に、色々な事件や出逢いを体験するなかで、様々な企業や人間の盛衰を見て来た。そして、自分自身も多くの失敗と成功を体験し悩み苦しみ、逆に喜び楽しみを味わって来た。そんな中から、税務、会計と共に事業を未来永劫発展継続させ、お客様の期待に応え、社員の生活を守って行くために、また一度しかない人生を生きていくためには、常に「どのような生き方が正しいのか」「何が正しくて何が悪いのか」「人間はいかに生きるべきなのか」といった生きる意味、人間のあるべき姿を追求するように生きてきた。そんな中で逢い

する多くの素晴らしい方々が二宮尊徳翁の報

徳思想について語られる。報徳思想とは二宮尊徳翁の思想全般を言い、すなわち「至誠の心(真心)」を基礎として「勤勉」「勤労」「分度・推譲」を「実行」することを教えている。その実践思想は、明治になって渋沢栄一、安田善次郎、豊田佐吉、戦後は松下幸之助や土光敏夫、稲盛和夫を始め代表的な事業家に多大な影響を与えた。当TACTグループの生き方もまさに同じであり、この銅像の台座の銘板には「積小為大」の文字と共に、建立の目的を次の様に記した。

「TACTグループはお客様の「ビジネスサポート業」「情報発信基地」「社外重役」として、お客様の経営体質の強化と健全経営の実現に寄与し、さらに当社の発展と全社員の物心両面の幸せを勝ち取り、もって国家・社会の発展に貢献することを共通の使命とする。そのために、強い精神力・迅速な決断力・洞察力を練磨し、心を高めいかなる環境においても『自利利他』の高い志に基づく正しい判断力を身につける。さらに、互いに切磋琢磨し、誰にも負けない誠実な努力と他を圧倒するほどの勉強をする。

この基本姿勢を常に忘れないために、税理士法人TACT高井法博会計事務所創業三十五周年を記念し、二宮尊徳翁の像を建立する。平成二十三年十二月二十六日

TACTグループ代表 高井法博

次に二宮尊徳翁の遺されたいくつかの素晴らしい名言について紹介をしたい。

二・積小為大…大事をなさむと欲すれば小なることを怠らず勤むべし

千里の道も一歩から始まる。一株ずつの田植えがあつて豊稔の収穫がある。すべては一から始まり、その積み重ねで大きな事業が達成する。二宮尊徳は幼少の頃から父母を亡くし、一家は離散貧困と不幸のどん底の中で伯父の家を引き取られ、昼は伯父の仕事を手伝い、夜は遅くまで読書続けた。これを伯父から油が減ると責められ、友人から一握りの菜種を借りそれを自宅の空き地に蒔いて大量の菜種を収穫し、それを油に代えて深夜まで学問をした。

さて、チャーチル元首相は数々の名演説で多くの人を奮い立たせたが、演説の天性に恵まれた訳ではなかった。若い頃、原稿を練り上げ、鏡の前で練習に練習を重ねた。後年チャーチルの息子は父の演説を絶賛されるとこう応じた。「当たり前ですよ。父は人生の花の時代を演説の草稿書きとその暗記に費やしたのですから」と。

「一尺の堀を越えんと 思わん人 は、一尺五寸を越えん



二宮尊徳翁の銅像建立除幕式の様子

銅像建立除幕式には約70人が参加した。